

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上については、算数科を中心に見直しを立てる場面で学習したことをまとめる場面に焦点を当て、指導方法の改善に取り組んだ。その結果、主体的に問題解決に取り組む姿が見られ始めているが、さらに、長期的なプロセスを児童と共有し、学習をデザインしていくことに取り組む必要がある。</p> <p>・いきいきと充実した学校生活づくりについては、児童の発意で決めた「友達を大切にしたい」の合言葉のもと児童が主体的活動に取り組み、落ち着いた生活を送ることができた。今後も日常的に凡事徹底を大切にし、学校生活の地盤を固めていく必要がある。</p> <p>・地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校づくりについては、感染症対策に努めながら可能な限りの活動は行うことができた。さらに学校主体の地域交流を推進し、効果的な家庭、地域との連携・協働体制を構築していく必要がある。</p>
2	学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
3	本年度の重点目標	<p>①学力向上 「課題に挑む子どもたちへ・子どもが実力を発揮できる環境へ」</p> <p>②充実した生活 「安心して通える学校へ・安心して活動できる環境づくりへ」</p> <p>③地域と共に 「地域と共に歩む学校へ・子どもは地域の宝」</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者		
(1)共通評価項目												
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言			
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○児童の目標達成率を達成させる。低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年60冊80% ○学習に対する意識調査において、関心及び主体性に関する質問において、肯定的に回答した児童の割合を80パーセント以上。	・定期的校内研修会等で、マイプランの進捗状況を確認する。各学年の取組を共有する体制を構築し、切磋琢磨して更なる取組の促進を図る。 ・授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ・児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。 ・図書室の活用や家庭を推進する。 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践。			A	・各種検査(全国学習調査・県調査・CRT検査)の結果分析を詳細に行い、今後つたい力や対策について全職員で共通理解し、校内研究に活用することができた。 ・国語の読書単元でお勧めの本の紹介をしたり、図書室を実践したりして読書に対する意識が高まり、年度末の目標冊数は90%以上の達成率であった。 ・目標達成率を100%達成できた。地域のボランティアの方々の読み聞かせや図書鑑賞、学級文庫の充実など、読書への関心を高める手立てを工夫することができた。 ・学習(算数)に対する意識調査(3回目)では、意欲に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合は86%と向上した。	A	学校の基礎基本を重視した取組を今後も継続してほしい。しかし、放課後児童クラブ等で宿題を済ませている現状は、学力向上の観点から考えるとメリットだけではなく、憂慮すべき面もある。		・学力向上対策コーディネーター ・研究主任	
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。	・教育の日等に「ふれあい道徳」として道徳授業の公開を行う。 ・体験活動を通して、友だちとの関わりや地域のひととのふれあいの機会をふやす。			A	・生徒指導部のアンケートを基に、児童の心の状態の把握を行った。気になる児童には話を聞くなど、その都度、対応を行った。 ・全学年、予定していた神楽島への訪問を実施することができた。また、独居のお年寄りの方に年賀状を出すなど、できるだけの交流を行うことができた。	A	「教育の日」を利用して、道徳について親子で一緒に考えることは意義深い。家庭での会話が子供たちに与える影響はとて大きい。 ・地域の行事も再開され、感謝祭には学校として協力できた。地域の力で子供たちの成長を支えてきた。		・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各学年担任
●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実		○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子どもが85パーセント以上を目指す。	・いじめ防止に取り組み、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。			A	・年3回の生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちをもつ子どもが89%以上を達成することができた。 ・アンケートにおいて、いじめを受けた見たという児童に対しては個々の聞き取りをして対応できた。年間を通して、職員連絡会でも全職員で共通理解を図り、学級担任だけでなく、学校全体で対応できた。	A	・地域での子供たちの姿や学習の様子からは、陰湿な雰囲気は感じない。アンケート調査と自らのこまめな指導の継続を願う。 ・引き続き近所で子供たちの姿を見かけたときは、その様子を見ておく。		・生徒指導主事 ・各学年主任	
●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。		●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と思う児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・各種活動で、児童に活動の見直し、学びのふりかえり、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。 ・地域のひと々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。			A	・毎時間の授業だけでなく節目となる行事ごとに「めあて」と「ふりかえり」を意識させ、カード等に記入させる取組により、キャリアパスポートの活用につながった。また、毎日の給食の時間に学校長が全校児童のよさを認める「届けよう湊っ子」の全校放送を継続し、全校児童100%のそれぞれのよさを認め、自己肯定感を高めることができた。	A	・様々な活動を通じて、子供たちの「できること」を増やしてほしい。		・教務主任 ・各教科主任	
○児童生徒が、「こんな自分になりたい」と具体的な自己実現の目標を設定する教育活動		○自分なりの「ふりかえり」を重視した効果的・効率的なキャリアパスポートの記述を進める。	・各種活動で、児童に学びの振り返りを実施し、達成感を感じさせる。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。			A	・毎時間の授業だけでなく、主要行事や節目となる行事等では、必ず「ふりかえり」の視点「めあて」を明らかにして「ふりかえり」を行う取組を行った結果、「こんな自分になりたい」と見直しをもって取り組み、思い浮かべた自分の姿をイメージして自己評価できるようになってきた。	A	・6年生や中学生がモデルとなって下級生によい影響を与えているのはとてもよいと思う。この学校文化を継承してほしい。		・教務主任 ・各教科主任	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ⑤「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●望ましい生活習慣の形成に向けて、生活習慣アンケートを全校に実施する。達成率を各学年全項目の平均65%を目指す。また、朝食を毎日食べる児童の割合、95%を目指す。 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。そして、食の自己管理能力の育成に向けて、手作り弁当に取り組む。	・食育月間の6月11日の2回に1週間「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎朝振り返りを各自行う。達成率及び児童、保護者の取り組んだ感想は、保健だよりにも掲載し保護者への周知を図る。 ・各学期に1回「手作り弁当の日」を設定し年3回実施する。毎回ワークシートに感想を書く。写真や感想を廊下に掲示したり、保健だよりに掲載したりすることで、食への興味関心を高める。			A	・生活習慣アンケート11月では、1学年が53%で目標達成とはならなかった。朝食摂取率は、98%と目標達成できた。廊下に掲示物を貼りだし、保健だよりで結果を保護者にも周知することができた。回数を重ねると、達成率がわずかに上昇し、規則正しい生活習慣の確立ができている。 ・手作り弁当は、予定通り3回実施することができ、児童の感想からも「朝食を食べるときは、調味料を入れることを知った。」「1人で初めて作ることができた。」「など、家庭からの協力もあり、児童の食への興味関心・意欲を高めることができた。	A	・学校の啓蒙の効果もあり、朝食の喫食率が高いことは素晴らしい。 ・生活習慣も食育も家庭教育が基盤となる。子供たちに直接的に指導していいことも大切であるが、家庭への啓蒙も継続していかなければならないと思う。地域でも機会を捉えて話題にする。		・保健主事 ・養護教諭 ・食育推進担当者	
	○たくましい体づくりの推進	○外遊びが好きな児童80%以上を目指す。持久走大会へ向けてのマラソン週間や縄跳び運動を通して、持久力の向上を目指す。	・持久走大会の4週間前から、業前で、持久走カードを使用し、運動場50周を目標に取り組み、達成率90%を目指す。 ・縄跳び2分跳び達成率全校で50%を目指す。			A	・持久走については、意欲的に取り組み目標達成できた。運動場50周以上は90%以上の児童が達成した。全員が100周以上走った学年があった。 ・縄跳びの2分間連続とび達成率50%を達成した。また、異学年集団や学年で積極的に8の字跳びにも挑戦することで、体力の向上につながった。	A	・子供の遊び場や近所の友達が少ないという現状、地域や保護者が率先して場所や機会をつくらなければならない。		・体育主任	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限である月45時間・年360時間以内を遵守する。	・毎週1回の定時退勤日を定め、完全実施をめざす。 ・会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。			A	・全職員がワークライフバランスを意識し、健康的な働き方ができている。年度当初には勤務時間外の在職等時間が月45時間を超す職員が6名であったが、年度末1月は1名となり、適正勤務時間管理が向上している。 ・職員会議、連絡会等を時間延長とはなかった。	A	・さらなる効果的・効率的な勤務体制を構築し、職員が元気に働く学校をめざしてほしい。		・管理職	
	○教職員の役割の見直しとICT・専門スタッフの活用による効果的・効率的業務の創造	○教職員のワーク・ライフ・バランスのとれた生活を実現し、健康でやりがいを持って働くことができるICT・人的環境を整備する。	・日常的に教職員の業務の平準化を意識させ、I・専門スタッフの活用や教職員同士で教え合う体制を醸成し、ICTも活用して業務改善に取り組む。			A	・年齢構成を考慮した教職員同士の教え合い学び合う体制が確立し、専門スタッフの効果的な活用により効果的・効率的な学校運営が行われた。 ・業務改善に係るICT活用については、個人のスキル面の課題より、逆に負担となる場面が見られた。	A	・教職員が授業や教材研究等の本来的な業務に専念できる状況を今後も継続してほしい。		・管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目												
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言		主な担当者	
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、地域の行事に参加する。	・公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ・「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。			A	・地域人材の活用については、各学級で効果的に活用し、全学級で年間を通して数回の地域連携活動を行った。 ・全学年で地域の児童、神楽島に遊び帰来清掃やヒーローニング活動を行い、校区の特色でもある「海」のよさが実感できた。	A	・児童が積極的に地域の行事に参加し、楽しんでいる姿が微笑ましい。			・管理職 ・教務主任 ・地域連携担当教員
	○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○校内支援会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、連携し、個に応じた対応ができるよう答えられる教員を80%以上にする。	・必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、校内支援会議を開き、支援していく。			A	・必要に応じてケース会議を開き、対応策を話し合い、職員会議や連絡会で困り感のある児童の情報を共有して支援にあたることで、最後に1年間の振り返りを行う。特別支援学級の継続や新設、新規入級に向けて保護者や保育園と連携しながら準備をし、無事に終えることができた。	A	・本校は、昔から、障がいのある子にも寛容な学校であった。それが、この地域のよさのひとつだと思う。今もその風風が受け継がれていることは喜ばしい。継続していくことを願う。		・特別支援教育コーディネーター
●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育												
5	総合評価・ 次年度への展望	<p>・「課題に挑む子どもたちの育成に向けて、子どもが実力を発揮できる環境づくり・授業づくり」をテーマに全職員で共通理解のもと共通実践を行い、思考力、判断力、表現力等が向上した。しかし、具体的に数値化した力としてはまだ確認ができず、来年度の課題である。</p> <p>・「安心して通える学校へ・安心して活動できる環境づくり」をテーマに全職員で安全管理意識の高揚と児童の健康体力づくりに努めた。その結果、児童が各種避難訓練、安全教室等に真剣に主体的に取り組むことができるようになった。また、全学級で県のスポーツチャレンジ種目に挑戦し、その成績は県より表彰を受けるほどで、全校で健康体力づくりへの機運が高まっている。この雰囲気来年度も継続していきたい。</p> <p>・「地域と共に歩む学校へ・子どもは地域の宝」をテーマに地域連携協働活動を積極的に推進している。その結果、子どもたちが生き生きと活動する姿が見られ、一人一人の自己肯定感が高まっている。来年度もこれらの活動を継続発展させ、その過程で具体的な思考力、判断力、表現力等の育成に繋げていきたい。□</p>										